

# ズームイン

zoom in

大塚産業マテリアルの  
社長に就いた  
**大塚 誠厳 氏**



創業300年以上の歴史を持ち、現在はカーシートの表皮とウレタンの間に使  
用する補強材の最大手、大

1997年 1997年  
おつか・もとよし 1997年  
日大・生産工学部卒、日本  
総合研究所入社。2003年大塚  
産業マテリアル入社、15年取  
締役営業部長、18年6月26日  
付で社長就任。滋賀県出身、  
43歳。

## 子供を入れたいと思う企業に

塚産業マテリアル(滋賀県長浜市)。31年間社長を務めた父親の大塚敬一郎・現会長から、今年6月26日付でバトンを引き継いだ。

大学卒業後、日本総合研究所でシステム開発に携わる。「新しいモノ好きだった」という大塚さん。幼い頃からコンピュータに関

心があった。当時は電子マネーのはしりで、そのシステム開発に打ち込んだ。入社数年後に、当時の敬一郎社長から「米国でビジネスがあるので、戻ってこないか」と打診される。

海外志向も強かった大塚さんだったが、その時は新プロジェクトをスタートし

に、中国子会社である嘉興奥津佳特種紡織品の副総経理に。それが「勉強になった」。出張ベースながら「中国女性の副総経理に鍛えられた。事前準備の大切さ、交渉力など彼女に育ててもらった」と振り返る。

この副総経理。日本の大手SPAの縫製工場でライ

起る前に解決できているので」と笑う。もちろん、変えていきたいと思うことはあるが「焦って急がず、腰を据えて着実にやればよい」と考えている。

目指すのは「従業員が自分の子供達を入社させたいと思う企業」。そのために「コア技術である不織布の立体成形技術を生かして」「既存

たばかりだったこともあり、断った。しかし、翌年にも同じ話があり、大塚産業マテリアルに入社する。

当初はサービス業とメーカーの違いに「戸惑った。慣れたなと思った頃・と思うことはない。問題が

ン長を務めたことがある人物。社員の心を見なさい」や「現場を見てから話をすべき」など三現主義をたたき込まれたそうだ。

社長に就いて2カ月余りだが「今のところは大変だ人「三方良し」そのもの。

(責)